





源氏物語玉の小櫛五の巻



桐壺巻

ついでに湯時おのり 二の巻 此物語をよみて作り物語として今昔といふ
いふ事言を述しし事なるにむづかしくはたしめしむるをいふ事
のまゝといふ事にして此の巻一巻のみなり伊勢集の巻もみづから乃
いふ事伊勢が巻をききて昔和歌の巻といひる事をしていふほどに
君の況もあつし。

いふ事よりいふ事 三の巻 源氏桐壺、文章よりあふ入内といふ事
さうして遠へいふ事 四の巻 源氏桐壺、文章よりあふ入内といふ事
いふ事 五の巻 此の巻は、いふ事 六の巻 源氏桐壺、文章よりあふ入内といふ事

うらうらわて曰　よりうらうらそのまじ　人のようなふもがらそまてけお
てハるおもそねしほひもまていふつづくづし

花やうねる曰　河海ふ聲花ハナヤカ白氏文集とけり。是より此物信のうら何乃
注ルカヤふかやゆむ又日本紀をたれ文字流引きまことあるし
まじが申おまれハるゆもまましづのふけりハおとせきもちまじ
もあわくハわらりがらててみぢりおとせきもありてこれぞやうが
おほのめおそがらむら何のまを傳ふし。太きいづもいづの
文字おちよるべくづむ。ゆ声花も白氏文集ありてをねやうとよま
てかまやべくまじもゆまそてをねやうと声花のまとのまおしてん
いづー遠ざく。これを声花をねやうとハ洲ユでさくまも。をねやう

を。声花といふはきかいらは。あやうらづとの何のほも此こねま
なまらり。

おれまのこみや曰　万葉五の巻おまれおま。白おれまが子古コヒハらうら
つやれおれまがこまおれまおまうらかやまうら男のいらかげらるは
うらゆつり。白居易持ふ。掌珠一顆兒三歳。花もおれまを。令れ
うららりねしつらこいづハハびがこし。

よせおま曰　續日本紀八の巻うら。寄重勢繁。文粹。自信公辞。
攝政表小。擔重寄於微身。負大任於小材。うらうらハ寄せ任まじ
み事おれまをいづまじらり。物アそ。うらね。信ほふ。外戚が
とれおまこいづこいづまじ。

此傳ふりしハ 口のひ 孫まふいつがごとく。黍稷をさし世に
さうふくねをば。

大くさばやむくねき 口 ああさばち。信ふ一さかりけしつをまじ。

ちぐえよりあしねべての 口 け上ふ一本お母とまきう。さもちうまーさ
らでハまうらびまぬ。

りりねく 口 ちうまじねるねあひてあまぐちふさうくちまじし。何海
無別無破あどほきう終るちうふくねまじ。

やぞさまうらせねし 口 史を局へ退らしをば。翌日もそのまうらあふ
さあうらしをまあじ。花まふねのハ染改まげうくちうらねがごと
うり。さしまてやうハ ヒスガ ちふまのまうくちまじし。信ふつあハ コト 異し。

いづ 口 け初ちちちく今まね信まふ。毒おあうくちまじい
ア。又んかうくちあまド家とつあまおまじり。うハ弘徹殿のおちま
さうねまきのぞくふあがしをまじし。信ふがかり。

ちち信 口 オハシ 稜橋まつまをまじし。よのつひね橋まじし。何れも何ド
あふくちまじ。さうねまきうくちまじねる。ちハあまのまじし。いづこへ
もいづこへと。用ちあへもあけてはまかりそまね橋まじ。ちうの
しこへうらま橋とつあまじし。うハ徹殿あまのる。橋お下河をいし
ちあふ切まじ。ち乃ちあふあまのまじし。ち。内橋打橋あど
ほまじ。ハうねま。あまねま。打橋とあま。信の信まねまをや。
あやしねま。あま 口 不浄をまねちうねま。人を誑ふまがかり。

ゆりくちりてハ、病さきくはれあはせりて、病ぬへにすねどもあ
らせりてしなり。

あふりてとセのり、一あむとてし。

まきぬとていともあげりて、病さふ目とりて物とる目つきなり。

目しとのりてはとていづり。又まづゆきとていづはとてぬりて。

いゆきハ、病さふゆきとていづり。目つきは、ゆきさふゆき。病さ
のさぬし。河墮竈、うとてとてぬりて。

いづるぬりて、病さふゆきとていづり。目つきは、ゆきさふゆき。病さ
あふべし。病さふゆきとていづり。目つきは、ゆきさふゆき。病さ

てづるまはせしん、とていづり。續日本後紀ハ、兼和六年六月庚戌朔己
てづるまはせしん、とていづり。病さふゆきとていづり。目つきは、ゆきさふゆき。病さ

卯女御從四位下藤原朝臣澤子卒故紀伊守從五位下總
繼之女也。天皇納之。誕三皇子一皇女也。寵愛之隆。獨冠後
宮。俄病而困篤。載之小車。出自禁中。絶到里第。便絶矣。天皇
聞之哀悼。遣中使贈從三位也。何り。相壺更衣のり。これり
授てあはるるべし。病さふゆきとていづり。目つきは、ゆきさふゆき。病さ

うらむとていづり。病さふゆきとていづり。目つきは、ゆきさふゆき。病さ
あふべし。病さふゆきとていづり。目つきは、ゆきさふゆき。病さ

あふべし。病さふゆきとていづり。目つきは、ゆきさふゆき。病さ
うらむとていづり。病さふゆきとていづり。目つきは、ゆきさふゆき。病さ

はむのりてとていづり。病さふゆきとていづり。目つきは、ゆきさふゆき。病さ

ききむしけきしけくしきし 日 けてきハきふりてそのきお
ちけいほばるもハ倍きふまあしきふけりて一きけきと休
くしけけの後系極友の里ハあそ月やけけぬしきけりてと
しき極きたふおぬしけけけけぬしきけりてと日ド。

ききむしけきしけくしきし たのひ 花きふ昇殿の人を男が

ちきおその上人といふべし。さけききとくといふ禁中け人を

きけぬしけきしけくしけき きけぬし。

けおけり相 日 さきけけけり相といふき客けりてけけ送る時おけり

物きけりて送物し。さきけけり贈るけりハけりけ。

ききむしけきしけくしきし 日 けきおけりけけぬし。さきけけけりけりけりけり

ききむしけきしけくしきし 日 さきけけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

しきし 日 河海影護 和名。 けきき。 けきき。 けきき。

しきし 日 けけり。 けけり。 けけり。 けけり。 けけり。 けけり。

けきし 日 けきし。 けきし。 けきし。 けきし。 けきし。 けきし。

ききむしけきしけくしきし 日 けきき。 けきき。 けきき。 けきき。
けきき。 けきき。 けきき。 けきき。 けきき。 けきき。
けきき。 けきき。 けきき。 けきき。 けきき。 けきき。
けきき。 けきき。 けきき。 けきき。 けきき。 けきき。
けきき。 けきき。 けきき。 けきき。 けきき。 けきき。

長恨の終末の事... 此後を亭子院の...
 長恨の終末の事... 此後を亭子院の...
 長恨の終末の事... 此後を亭子院の...

長恨の終末の事... 此後を亭子院の...
 長恨の終末の事... 此後を亭子院の...
 長恨の終末の事... 此後を亭子院の...

みちすしち。

ながやうのみどりかき... 細流の...
 ながやうのみどりかき... 細流の...
 ながやうのみどりかき... 細流の...

かくとせおのづから 十士の御 かくともハ、文をいなくおしめてもなり。

おのづからいふべきつらき事とくくせり。おのづからいふべからば。

かき人のまことりき 日 あまきこもねまはるはまらうておききせ給

ふれどおのづからぬとせもはわがきりてはるこそよりつるこそ。

かくせぬとよきしとくろりしこそ 日 ほどてうなりしとくふえハ、お

書おてハ、美麗のこそおきごも。おぼろふつらハ、ハ、美麗のこそハ、あ

らで、信ふきりしとてうとくも。おのづからいふべからば。

ハ、楊貴妃の姿、見きよるよきハ、おわりまらうてかこく、ハ、おまや

っおまらうとくおききしとく。

おのづから 日 ほどては、おのづからいふべからば。

らうふきしとくおききしとく。信ふふとてハ、ヤ、異し。

らうとげおりし 日 け、おのづからいふべからば。

おのづからいふべからば。

おのづからいふべからば。

おのづからいふべからば。

花言はれおのづからいふべからば 日 うち楊貴妃が、ハ、ハ、楊貴妃柳を

おのづからいふべからば。

おのづからいふべからば。

おのづからいふべからば 十八の御 痛く思

おのづからいふべからば。片腹痛くとくるハ。

つみ—きむがこりり。

い—わ—し—もちかどろ—きき日 殆どお。何最押^{イトオシ}立^{チカク}才^シ日本^{ニッポン}地^チ今^{イマ}掲^{カケ}日
本^{ニッポン}紀^キふ^ふオ^オは^はま^まい^いか^かど^どろ^ろは^はら^ら先^{マツル}張^ハい^いか^かつ^つま^まき^きろ^ろく^くま^まさ^さろ^ろく^く
し^し今^{イマ}は^はろ^ろく^くし^しに^にオ^オの^のま^まは^はら^らん^んひ^ひん^んど^どい^いや^やが^がる^るあ^あの^の
そ^そが^がり^りろ^ろく^くか^かど^どろ^ろん^んの^のお^おの^のお^おべ^べー^ーそ^そろ^ろり^り此^{この}後^の乃^はり^り今^{イマ}昔^ノは^ハら^らい^いも^も。
か^かど^どろ^ろく^くし^しは^はら^らん^んの^のお^おの^のお^おべ^べー^ー。

は^はら^らん^んは^はら^らん^んも^もろ^ろく^く日^日い^いろ^ろく^くま^まひ^ひろ^ろん^んと^とハ^ハや^やは^は上^上ま^まは^はお^おは^はり^り
ろ^ろく^く日^日の^のお^おの^のお^おべ^べー^ーは^はら^らん^んの^のお^おの^のお^おべ^べー^ーを^を月^{ツキ}の^のい^いを^を信^{シマ}じ^じ。
そ^その^のお^おの^のお^おべ^べー^ーと^と月^{ツキ}の^のお^おの^のお^おべ^べー^ーに^に任^{マカ}を^をよ^よめ^めり^り。さ^さら^らに^に衣^イ
衣^イの^のま^まは^はら^らん^んを^をお^おべ^べー^ーと^とろ^ろく^くに^にや^やる^るも^もい^いは^はら^らん^んの^のお^おの^のお^おべ^べー^ーを^をひ^ひが^がす^す。

つぎがこい 十五のむ。

或^{ある}お^お云^い陪^{ヘイ}膳^{テン}の^の女^メ房^{ぼう}は^はら^らん^んを^をと^とろ^ろく^くに^につ^つり^り。
此^{この}後^のを^を皆^{みな}い^いと^と後^の世^よは^はら^らん^んを^をと^とろ^ろく^くに^につ^つり^り。
席^{せき}子^こは^はら^らん^んの^のお^おの^のお^おべ^べー^ーを^をお^おの^のお^おべ^べー^ーに^につ^つり^り。
と^とい^いふ^ふは^はら^らん^んの^のお^おの^のお^おべ^べー^ーを^をと^とろ^ろく^くに^につ^つり^り。
の^のお^おの^のお^おべ^べー^ーを^をと^とろ^ろく^くに^につ^つり^り。

け^けい^いろ^ろお^おの^のお^おの^のお^おべ^べー^ーを^をと^とろ^ろく^くに^につ^つり^り。さ^さば^ばの^のを^をと^とろ^ろく^くに^につ^つり^り。
い^いろ^ろく^くに^につ^つり^り。と^とい^いふ^ふは^はら^らん^んの^のお^おの^のお^おべ^べー^ーを^をと^とろ^ろく^くに^につ^つり^り。
み^みろ^ろく^くに^につ^つり^り。さ^さば^ばの^のを^をと^とろ^ろく^くに^につ^つり^り。
て^てい^いろ^ろく^くに^につ^つり^り。い^いは^はら^らん^んの^のお^おの^のお^おべ^べー^ーを^をと^とろ^ろく^くに^につ^つり^り。

此世はものさしに 久しく足踏りで 日月へく足ふおふいよ
いよううらぐわりのけりしきまていづと子問を結つふ
べきよしきしつひに

中々やや 源氏を坊おまはるはあやふくおが
ききし けつさくさく

かぎりてまろ流と 帝の源氏をさびりおが せせもさ
まて坊おまはるはあやふくおが

はくさく 止のひく ねぶく女侍をさびりおが せせもさ
まて坊おまはるはあやふくおが

あやふくおまはるはあやふくおが 延喜のころあやふくおが
はくさく

源氏をさびりおが 延喜のころあやふくおが
はくさく 止のひく ねぶく女侍をさびりおが せせもさ
まて坊おまはるはあやふくおが
あやふくおまはるはあやふくおが 延喜のころあやふくおが
はくさく

源氏をさびりおが 延喜のころあやふくおが
はくさく 止のひく ねぶく女侍をさびりおが せせもさ
まて坊おまはるはあやふくおが
あやふくおまはるはあやふくおが 延喜のころあやふくおが
はくさく

かてつりてしとかがきつていひたぐりまふもくそ帝まふり給
してハみごころぬるすねごとやあらん又帝ま乃おふかーおき
ぬれあふハゆくハ又折改言白ねごとぬり給ふべき相うさと思へど
と帝まねおられぬを悔言おしてハおぬるをどよぐべーといひ
みごころぬるすといひハ帝まねおぬるをどよぐぬのあふを疑
ててハさるこやあらんといひ給ふまをよみごころぬるべ
きおのまーやふぬーといひ信じて又おぬるべーを補佐の人
もておぬーまきばみごころぬるおぬるもがいてあふべーといひ
も信じてさてハ宗祇整冲などもいひあふ又といひまふぬる
いどこハ花きの説ごよちーかりき。

いづれおろり物を 此のち 源氏まね 鴻臚館よりあり給ふ時乃
こそ人の送らあり。

かーこきぬんーやまかこさう波おやきて 此のち

みくがしのぬんー 此のち源氏もー親まおぬるま人の疑ひもどあふ
てかつりてぬとせおよちーかろぐと考へぬるをまやまきさうと
まろつてかろぐといひせものハ疑も思ひよき人のうろどまきさうの
まろつて考へぬるま源氏もー親まおぬるま人の疑ひもどあふ
らふ業のお人のみごころぬるすやあらんとかせらぬるづら
あがーせー考へぬるま源氏もー親まおぬるまかろこかりき

すくおがせし。細流お和國の相人もかやうお中はこちとけいひとく
もこれ相人よんを結ぶよりやをけいひもいまはるお人のこ
てはかゝるこまはんりつとくも用多しおがしよりふたふたも
るいふ事始れんりかむ久しあつていさやあとおとすいひひあま
お人のよとりて取らるはしよとおとつうりおなきていさい
きはこらふ日 指きお毎際ここの字邊まべりといふいひま
きなといつていさおまや際殊しお中へはべり
内竹のまけ 昔おむり 上ふゆぎひの今婦か内竹のまけのまけし
いとつとくといへるべきま

三代のみやだえり 日 河海お此先帝相當光孝天皇是典傳

詞やも三代のまづうへつり。光孝宇多醍醐よるべきうとわ
ろは弄花細流おとして三代もいざとく久くといはむ
いとむ河海お堤おたし先帝と光孝をさおあるむおべり
うきぢりて 昔おひつとくもいひてかまはるかおねくしてか
もつゝぬべきもいさあきとじ。河海お諾兼諾の心し受張お當乃
んりやとそし指きお人のうきしてむらぬこといふまはるの
おたさか人ようきりけり方よりおとあもまべり進どけうい
いさひとけりていさお物くも
おがしきぢりていはるるまじ 日 まきとけりお中へつとく
おがしきぢりていはるるまじ

月おふ孟としてちりさるるゆゑにして、未とすわじ此を
ひきり心ねおこべり。

わやしくよき入すつべき 日 或おふ者壺に相壺、文衣およく相よ
まへにば、原氏の所母もよき入いふをきこらちり、ねやとてといへる
よほし。胡月、悦よ、いみじきまじがこじ。

いとよきおくりゆき 日 せお一、文衣のつづきまよ、ねど
まげ原氏とよく似てきことのさまおし。胡月お、蓋壺と原氏と似
あひてといつ、ふねもど、おくりゆき、いもゆき、さきのまをれを、更
衣乃も、ねくで、はうまひど。

あひて、是しあおも 日 色ひて、はも、似てといふさま、で、藤つが、ね、ね、乃。

原氏と、似て、是しあおよりし。胡月お、うらう、まどらね、ま、い、
あひて、是しあおも、え、といつ、は、お、お、の、ま、も、ん、ど、お、お、お、
つ、原、後、お、ら、思、へ、を、ま、こ、う、ら、ま、て、い、あ、ひ、て、い、つ、お、ま、も、こ、お、ハ、穩
あ、い、だ、又、是しあおも、お、蓋、壺、へ、う、ま、よ、何、と、あ、し、ま、お、蓋、つ、が、ね、原
氏、お、い、ひ、あ、ひ、て、是しあお、と、い、の、ま、ま、お、ま、い、何、ま、い、け、り、又、是し
あ、お、ま、原、氏、お、へ、う、ま、い、ん、も、あ、お、と、い、お、い、い、が、し、蓋、壺、へ、の、ま、
お、原、何、お、原、氏、お、の、ま、原、お、お、と、の、ま、い、ん、こ、何、お、い、か、へ、ま、を、し、
お、ま、ね、く、い、び、る、し、日 よ、ま、へ、て、お、と、ま、し、お、ま、い、ん、お、お、お、お、ま、お、
ら、お、と、し、上、お、ち、や、う、よ、ま、へ、お、い、つ、べ、き、と、つ、ま、を、う、ま、て、お、ま、
ち、り、よ、ま、こ、ら、上、よ、り、お、文、の、ま、原、お、り、て、い、ま、い、せ、お、一、更

夜のつゝほきまゝにねど此原氏といふとやうにやまゝ一が又藤つが
の原氏と物してゑのあそふも。ちや一母子とよき入つたを
まごころにそれをしてよき入る。母と子一ふといふはむふつら
りかゝるおあぐげとの縁へるこ。
まははを結へきは 日 ほんの作せつたりつらねどおつまじま
むけてむむべー。昔まあは。福をさるー。むがこし。
こよねうんよせ 日 他ほかの女侍衣もちとハかくなげおまゝりて。
藤壘へもんをよせなかり給ふこ。
そまゝくーに 日 言は本のまに孫まの悦乃ゆくねべー。地まども
おほくつらひらまハ側くーに。

おぢやまごふけくう海つと原 日 東家のほえ娘の時まゝがあぢやま
まはまは。定まりねた。おはくまりしこ。こハおぢあろま。ねおぢ
むぞうくせと。こは。おぢやま。ねま。ハ。か。り。ま。ね。ら。ま。
おぢがハドとまも。のこまし。こは。ん。を。つ。こ。ハ。お。く。こ。あ。や。う。ね。こ。
こまねま。ものねま。は。し。ほ。ま。ま。の。ほ。え。娘。お。ハ。念。入。り。し。こ。こ。
る。ハ。お。ー。む。が。り。
敵 日 せむし。でん。と。よ。む。べ。ー。こ。ハ。な。ま。あ。の。こ。よ。む。べ。ー。ハ。
そハ。お。ぢ。を。ち。ね。ま。あ。て。その。こ。か。ら。い。ま。あ。
むきつこ 日 加冠の人をつか
みづ 日 孫まお。何髪臥 日 今持此二まあ。ま。あ。を。あ。ぐ。べ。と。云。ま。

大花つらん人ほろゆ川る。こねも大花つらん人の髪は役をつ
うまつるとして髪は髪おつる何わぶきおちまひのやうか
さきばこさばううとくまきんさうう人とハ写し漢まゝに
髪髪はぬうと上とつおべきおしむ又花も花流のぬく大花つらん
花人たかひまほし髪はうう人の下お髪髪をいつ河のまゝかおら
うういづとおまれま何うてハ何うハ何うとてやせむ。

法やまもぞうほふまをば髪はうう
二枚菌一枚といつり今花も髪髪を考ふう一枚の下お為親
王換衣所といふ文ありこのほお此文まをといふをハうう
か畧ううハいつか。

きしおく 其のりく 北山抄皇太子加元服條裏書云息所参事寛

平九年七月三日丙子為子内親王當夜参入延喜十六年十月廿
二日甲辰故左大臣女参入用鞞應和三年二月廿八日辛亥昌
子内親王参入俗謂之副臥乎。

あまのきりてんごうゆうまふ日 子あり一處お左左の原氏お墓上のす
さほのまういゆあをつりといつらう。湖月お或流ひがこいし
うへの令婦日 帝のぬまちうけうゆつ内令婦む弄花お内裏
お何儀もさび内令婦といふまを上の令婦といふべうといふま
うまうりこいハ外令婦お對り内令婦およわをううばうといふ
うへまづううはがのむをううえし。

おもしろくもさうぶ。ほふん清く無かめさうらうじとついでに。こ
おもしろかり好いて後々。日。元始し好いて後々。ついでに。
母は息子のいさむらぐ。好く。日。はうご。と。父の富く。母の里く。は
え。い。く。さ。う。ら。う。

おもしろ。日。無二の。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。又。無二の。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。

帯本巻上

おもしろ。ほ。氏。名。の。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。
おもしろ。い。さ。む。ら。ぐ。と。い。し。い。さ。む。ら。ぐ。も。う。は。い。の。お。も。ろ。く。

まご申ねまごおね一終ひ一時一いふよりまご先へまごりてまご
まご一やう御つぎ一お清まご一し

名のまご一し一し け下めてまご御まご一しんね一

いひしこと終まごが 係氏まごのまごてのまごねまごがまごてまごのまごのね
まごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご
づし一文のおまごまご

いしかへねまごにまごまごまご いひしことまごまごまごまごまごまごまご
申おまごおつし一まごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご
いしねまごまご一し一かへね一し一ねまごまごまごまごまごまごまごまご
らおまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご

まごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご
づし一まごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご
地のねまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご
まごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご
まごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご
まごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご
まごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご
まごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご
まごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまごまご

まご申ねまごおね一終ひ一時一いふよりまご先へまごりてまご
まご一やう御つぎ一お清まご一し

まじりかもその始へ立ちつりていかに。なごりかも。ちがまつ
りまむろくつて。泪し。ぬひ。け。志。も。の。り。ま。て。苦。ま。り。も。ま
け。く。り。ぬ。ま。び。し。物。お。は。ま。ま。け。も。け。り。銀。ひ。も。ほ。ま。い。た。

うちおのこま。い。うちま。い。こ。ま。日。ら。ま。ま。を。文。中。お。ま。ご。お。て。お。け。け。
ひ。し。こ。ろ。乃。ま。ま。を。む。ろ。く。つ。し。此。ま。け。時。の。こ。ま。か。ま。い。だ。

儀軌 日。河海お引き。儀軌の。ま。ま。ま。お。ま。り。ま。ま。が。お。ま。り。こ。ろ
儀軌おいへ。後。ま。物。忌。い。れ。を。兼。お。ま。つ。ら。ま。り。ち。ま。お。ま。り。て。ま
と。河。や。が。て。鬼。王。の。名。こ。り。て。造。ま。ま。の。じ。い。け。拙。

い。ま。お。ま。の。ニ。の。ま。り。上。ま。の。ま。り。ひ。ま。り。し。け。り。て。い。ま。ま。
ひ。ま。り。い。い。お。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。

てい。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

お。わ。い。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

い。ま。ま。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

ぬ。ま。ま。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

保。氏。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

い。ま。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

い。ま。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

い。ま。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

名。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

み。ら。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

もよほしてけしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうらなうら
づきまかこころもなる申おまじ。

かたしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうらなうら
てしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうらなうら
あつちりくびち髪おそろぬまこしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうら
よつちりくびち髪おそろぬまこしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうら
まこしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうらなうら
あつちりくびち髪おそろぬまこしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうら
或ちもちりくびち髪おそろぬまこしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうら
又花もに漸又

願まじりかたきあへんかたしむるがらうらなうら

あつちりくびち髪おそろぬまこしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうら
まこしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうらなうら
あつちりくびち髪おそろぬまこしむらひあきかたきあへんかたしむるがらうら

のどやうね。日 後うあちづりね。こころし。

おろねづ。日 ぬま。ほ殿油。ま。あ。津。火。つ。あ。こ。

か。こ。も。日 ち海。あ。頑。片。輪。と。つ。ま。も。あ。ひ。が。こ。し。ね。ま。の。流。乃。こ。

あ。の。が。ち。づ。日 面。こ。そ。ま。こ。あ。つ。い。か。ま。し。弄。花。細。流。あ。み。づ。う。ら。の。ら

づ。あ。ま。あ。ね。あ。つ。い。ち。り。こ。し。月。あ。あ。ね。の。ま。あ。こ。つ。あ。若。ち。海。あ。各
自。姿。こ。ら。あ。ま。あ。つ。い。ち。り。こ。し。月。あ。あ。ね。の。ま。あ。こ。つ。あ。若。ち。海。あ。各
あ。の。が。ち。づ。日 面。こ。そ。ま。こ。あ。つ。い。か。ま。し。弄。花。細。流。あ。み。づ。う。ら。の。ら

おやぎき 日 おやぎき おやぎき ありしころも ねむるあやめしむる
わがしるすめおのしりしころも ありし。

むしりしころも 日 何れも一巻ねむるあやめしむる
と御おやぎきと改先しころも ありしころも ありしころも
はましころもねむるはましころも ありしころも ありしころも
くねむるはましころも ありしころも ありしころも
なましころもねむるはましころも ありしころも ありしころも
ろのやぎきねむるはましころも ありしころも ありしころも
ごしころもねむるはましころも ありしころも ありしころも
もろしころもねむるはましころも ありしころも ありしころも

おやぎき

まねびしころも 日 ねむるはましころも ありしころも ありしころも
おしころも 日 ねむるはましころも ありしころも ありしころも

ほしころも 日 ねむるはましころも ありしころも ありしころも
おしころも 日 ねむるはましころも ありしころも ありしころも

そのころも 日 ねむるはましころも ありしころも ありしころも
ゆきねむるはましころも ありしころも ありしころも
もねむるはましころも ありしころも ありしころも
よしてわがしころも ありしころも ありしころも

とらふりてはゆかり。

あつらひまり。○ 昔時のふゆつかし又わづらひつるまをて、文紙乃
分際さうしつゝ、いふもあはれと、上りの信のふむびきとあは
あやゆかりのつゝ。

あま〜ゆかりのつゝ。○ 信のふゆつと、きつるつゝ、いふ〜と、公の〜
つゝ、いふ〜も、いふ〜のつゝ、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、
儀の〜とお對して、いふ〜。いふ〜のつゝ、いふ〜も、いふ〜も、
の本は、いふ〜のつゝ、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、
いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、
いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も。

非参議の三四位ぞと、いふ。○ 信のふゆつと、きつるつゝ、いふ〜と、公の〜
あつらひまり。○ 昔時のふゆつかし又わづらひつるまをて、文紙乃
分際さうしつゝ、いふもあはれと、上りの信のふむびきとあは
あやゆかりのつゝ。
あま〜ゆかりのつゝ。○ 信のふゆつと、きつるつゝ、いふ〜と、公の〜
つゝ、いふ〜も、いふ〜のつゝ、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、
儀の〜とお對して、いふ〜。いふ〜のつゝ、いふ〜も、いふ〜も、
の本は、いふ〜のつゝ、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、
いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、
いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も、いふ〜も。

―おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

おちりかゝる。ほくろは。おちりかゝる。ほくろは。

て男おえりしうむれぬし。後におちりてまよふまよふをいふも。はなはだうらや
しうむれぬし。おちりてまよふまよふをいふも。はなはだうらや
中おれ女まぶらふ。おちりてまよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや

まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや

まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや
まよふまよふをいふも。はなはだうらや

ゆめごとよ〜時おび〜

あ〜ききおま〜かおお〜ても〜
まの。花ののまに。まのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。
おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。
又まお〜もき〜。又〜お。下ふく。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。
おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。
又まお〜もき〜。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。
まお〜もき〜。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。

み〜ら〜とがらふ。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。
耳よりあへも〜おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。

〜ゆり〜おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。
耳ゆ〜とま〜。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。
〜ゆり〜おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。

おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。

おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。

おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。
おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。
おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。おまのふしり。

ふあづりあつゝふえいせきやほむきげーきーんはひんしんが

たり。はよほこびあひしてしほほを何ともほもふ。

くしりやまのどきだあはあはあ。い。い。さるやうのおまはやう。

あづりあつゝの強そいあひん

あづりあつゝの強そいあひん。い。い。さるやうのおまはやう。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。男のついでにほきんがきをばいしぬものやう。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

あづりあつゝの強そいあひん。

おどろかし曰 ちよき女房がござしに海も後ほき川に流るるもおどろ
しにけがござし。

君のほろち曰 ちよき女房の男にござし。

ちよき女房の男にござし。わしに後ほき川に流るるもおどろ
しにけがござし。

やぞちよき女房にござし。一本のやぞちよき女房にござし。
ちよき女房にござし。一本のやぞちよき女房にござし。
湖月おふ此おきにはちよき女房にござし。一本のやぞちよき女房にござし。
てさしちよき女房にござし。一本のやぞちよき女房にござし。
よくとちよき女房にござし。一本のやぞちよき女房にござし。

おどろかし曰 ちよき女房の男にござし。わしに後ほき川に流るるもおどろ
しにけがござし。

おどろかし曰 ちよき女房の男にござし。わしに後ほき川に流るるもおどろ
しにけがござし。

そがとひぬいそひあつてきてよまへ又よまへがねどつとよまへ
ねしとひぬいそひあつてきてよまへ又よまへがねどつとよまへ

よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ
よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ

よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ
よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ

よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ
よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ

よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ
よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ

ぬふりふじこころの遠ひこ

そよふつとよまへ又よまへがねどつとよまへ

よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ
よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ

ぬふりふじこころの遠ひこ

よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ
よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ

よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ
よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ

よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ
よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ

よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ
よまへがねどつとよまへ又よまへがねどつとよまへ

らるる人のしるしをわたりていふに
て善人しるしをいふなり。又けていふに、花も香も、香も花も、香も花も、
みどりしるしをいふに、花も香も、香も花も、香も花も、
を人の本意おぼえき人のまことしるしをいふに、香も花も、
らるるしるしをいふに、花も香も、香も花も、香も花も、

らみぢれ 日 彩色をいふに、花も香も、香も花も、
花も香も、香も花も、香も花も、香も花も、
もて、^{スミカキ}花も香も、香も花も、香も花も、
彩色をいふに、花も香も、香も花も、香も花も、
はのりぬをいふに、花も香も、香も花も、香も花も、

ら海つらりゑといふに、彩色をいふに、花も香も、香も花も、
花も香も、香も花も、香も花も、香も花も、
をいふに、花も香も、香も花も、香も花も、
はのりぬをいふに、花も香も、香も花も、香も花も、

ら海つらりゑといふに、彩色をいふに、花も香も、香も花も、
花も香も、香も花も、香も花も、香も花も、
をいふに、花も香も、香も花も、香も花も、
はのりぬをいふに、花も香も、香も花も、香も花も、

